

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名** グループホーム ひなた

日付 平成19年8月29日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 老人保健施設介護経験6年、居宅介護  
支援専門員経験6年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

[自主評価結果を見る](#)

[評価項目の内容を見る](#)

[事業者のコメントを見る\(改善状況のコメントがあります!\)](#)

## 1. 評価結果の概要

### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

当地で長年事業展開してきた代表者は、地域に恩返しをしたい、高齢者が認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らしてもらいたいと、凡そ3年前にこのグループホームを設立した。『笑いと楽しみのある普通の生活、ゆっくりしたリズムで自然と触れ合いのある生活、できることはしていただき健やかな生活、家族や地域の人々に触れ合いのある生活～私たちがいつも心掛けて、一人ひとりのそばに居ます』という介護理念を掲げ、この3年足らずにホーム長や管理者、職員が利用者に「優しさと温かさをケアに」をモットーとして一生懸命接してきたに違いない。

3年間は、利用者の症状の重度化、新しい利用者の入所、職員の異動などによって、ホームの様子に変化をもたらさざるう。今年2月15日発行の“ひなた新聞”第4号の冒頭にこんな記事が書いてあった。

「先日、ひなたの写真、整理していますと、あっという間の一年なのですが、一つ一つの行事から入居者の皆さんの表情なつかしく思い出され、当たり前ですが、それはとても大切な思い出。私たちはその思い出と共に生活させて頂いていることを改めて感じました。(中略)この一年、新たに勉強しながら、入居者の皆様と大切な思い出を増やしていきたいと思います。それにしましても、写真から、成る程いろいろ見えてきます」

利用者の心の変化は、顔の表情に現れることは良く云われていること。毎日、利用者に接しているだけでは、表情の変化を具体的に判別することは難しい。毎日一定の状況下で写真を一枚ずつ撮っておき、その顔つきの変化を連続して見ると、その人の心の変化を察知することができる。それによってケアの効果を評価する一つの方法になるだろうと思う。前の記述から、良い所に気付いていると感心した。今後のホームのケアの質の向上につながる良い手段となるかも知れない。

特に改善の余地があると思われる点

上記したように、表情を追っていくことを一度考えてみて欲しい。重度化していても心を映し出す表情は貴重である。心の表出は、「おしゃべり」をすることから始まる。タドタドした口調になっても、言葉を発する「きっかけ」を投げかけて、一日に10分でも良いから、突き切りで職員と向き合って話しをする習慣を持ってもらえないだろうか。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：ホームとしては出来ていると判断している。職員全員、利用者も巻き込んで 相談し理念に基づいた具体的な目標を立て取り組むと、連帯感、責任感も生まれそう。</p> <p>全体を通して…：「利用者と同じに職員も大切に、共に笑顔でいられる関係を作っていきたい」と答えてくれるその表情はホット包んでくれる優しさを感じられる。職員は常に利用者は認知症であるということを頭に置いているが常に笑顔で、前向きに利用者に接しており、利用者の希望や要望に「ちょっと待ってね」という言葉は言わないように心がけている。</p> <p>この思いが利用者の心にやすらぎと落ち着きを与え、表情の豊かさや自分の気持ちを素直に言葉に表している結果だろうと思う。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：ホームでは、利用者が馴染みの品に触れる機会を持てるようにしたいと考え、改善項目として挙げている。家族に話をしていて、家族は古くて汚れていると持込を遠慮したり、本人の暮らしを充分把握していなかったりするそう。家族にも理解してもらい今後に期待している。</p> <p>全体を通して…：緑豊かな自然に恵まれた環境の中、ホームの敷地はゆったり広い。散歩や畑で土いじり等外周り空間は存分に楽しめる。木目を生かした暖か味のある建物で、リビングとトイレには床暖房完備。利用者は、寝る時以外は殆んどリビングルームで、皆と一緒に過ごしていた。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：ホームは定期健康診断の支援を改善項目に挙げ、家族と相談しながら体制を整えていきたいと考えている。看護資格を持つ職員が多く、提携医院との連携も密に出来ている。さらに定期健康診断をしてもらえば申し分ない。提携歯科医による定期検診を取り入れると更に良くなると思う。</p> <p>全体を通して…：ホームに来て落ち着き、他人を思いやる心を持てるようになった。「お茶を入れようか？熱いのがいいかな？ポットの湯はどうだったかな？」とお茶を入れようと立つ利用者。他の人の喧嘩の仲裁をしたり、トイレの回数が激減したりして、このホームに来て人間としての機能が良くなった話を色々聞いた。「私はこんな所があるのは知らなかったけど、息子が此処へ来るようにしてくれた。家に帰りたとは思わない。此処がいい」という利用者の言葉に納得した。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>自主評価について…：ホームは家族同士の交流促進を改善項目として挙げている。初めての家族同士の食事会を計画し、ホームも家族も楽しみにしていたが、ちょうど台風が来て実施できなかったそう。再度日を変えて企画予定と聞いた。家族同士の交流が深まり、やがては家族会に発展していくかも知れない。是非実現して欲しい。</p> <p>全体を通して…：地域との付き合いが上手くできているのがこのホームの特色だ。ひなた新聞を地域の区長が町内回覧してくれて、近所の人が「あんた、新聞見たよ」と声をかけてくれたり、ホームの夏祭りを楽しみにしてくれているそう。運営推進会議に地元の人も出席して、「グループホームのことが分からなかったけど、分かって良かった」と打ち解けて、ざっくばらんな話ができています。認知症のことなら「ひなた」に行くと聞けば良いと、地域から頼りにされる存在となる日も近そう。</p>		